

5 - 3 保護地域のコントロール手法の検討（案）

- ◆ 出水で多数のツルが越冬可能な要因として、餌、ねぐら、安全な空間がある。
- ◆ 現在、荒崎および東干拓の保護区は、周囲を防鳥ネット等で遮蔽し、人の侵入や夜間の車のライトの差し込みを防止し、安心してツルが滞在できる空間を提供している。
- ◆ ツル類の渡来時期および羽数に応じて、防鳥ネット等で保護区の面積を増減させることにより、ツル類の自発的な新越冬地への渡りを促す。
- ◆ 実施した際のツルの行動の予測が難しいことから、徐々に試行を繰り返し、その結果を次の試行に反映させ、順応的に行うことが必要。

1 手法の検討

- ◆ 保護区域の面積のコントロールを行うことによって新越冬地への渡りを促す。
- ◆ 飛来直後のツルは、警戒心が強いとされている一方、越冬後期には借り上げ農地のあぜ復旧のために重機が保護地域の中に入っても休遊地内にとどまるように警戒心が弱まっているので効果的な実施時期の検討が必要。

2 必要な調査等

- ◆ 出水平野におけるツルの分布状況の把握（日中）